

科目名	社会学概論			ナンバリング	SOC122	授業形態	講義
対象学年	1年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	柳澤孝主	担当教員					

授業の概要	この講義では、社会学の基本的な考え方を、様々な資料を活用しながら具体的に学ぶ。統計的資料、新聞や週刊誌の記事、その他様々なトピックスを含む質的データも駆使しながら、社会諸現象の解明を試みる。そして、われわれ自身の生活世界を基盤にした社会学的センスを身につけ、社会問題や社会現象への具体的アプローチを体得する。						
到達目標	1、社会学的センスを身につける。 2、社会諸問題の解決へ向けた実践的展望を図ることができる。 3、社会諸現象の解明へ向けた具体的視野を拡大する。 4、2と3で挙げた社会問題、社会現象を、学生それぞれの生活世界から問い直す姿勢、態度、方法論を獲得する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1、社会学入門、家族社会学、地域社会学を合わせて履修することが望ましい。 2、身近な生活世界で起きていることや、自分自身の体験等と関連づけながら思考を深めていくことを重視する。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1、基礎的な社会学的センスを理解している。 2、社会諸問題の解決へ向けた一般的視野を獲得できている。 3、社会諸現象の解明へ向けた一般的方法論を獲得できている。 4、生活世界からの問いの重要性を理解している。	1、社会学的センスを体得し具体的思考を展開できる。 2、社会諸問題の解決へ向けた実践的展望を図ることが可能である。 3、社会諸現象の解明へ向けた多面的視野を獲得できている。 4、身近な生活世界から社会的な諸事象を問い直す姿勢と必要性に気づいている。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		70%
宿題・授業外レポート	○		○		○		10%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	1、毎回授業のリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業にて振り返りとコメントを行う。 2、授業全体の課題の提示・作成を行い、希望する学生に自らの課題作成の採点状況のコメントを行う。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	シラバス、テキストの目次、テキストの”はじめに”を概観し、自分なりに社会学のイメージを描き、第三者に説明できるようにする。	
	第2回	社会	いわゆる”社会的”なるものと、われわれの生活世界との関連性を具体的に説明できるようにする。	
	第3回	行為	人間の行為の意味とその諸類型を原理的に把握し、心理学でいう行動との異動にも目を向け、生活世界におけるわれわれの行為の構造を明確にする。	
	第4回	集団	集団の諸類型を体系的に把握し、それぞれの集団に所属する人間同士の結びつきの特徴を、具体的に説明できるようにする。	
	第5回	家族	家族の定義、基本的構造、現代の特徴を正確に把握し、現代社会にとつての家族の意味と将来の方向性の輪郭を示せるようにする。	
	第6回	都市	都市の諸特徴を把握し、人間が集結することの意味について考える。その上で、都市化と過疎化の問題について具体的にポイントを絞る。	
	第7回	逸脱	常識をはじめとする規範の意味を把握し、逸脱行為としての非行や犯罪の問題の輪郭をとらえ、現代的課題を提示する。	
	第8回	コミュニケーション	言語的なものから非言語的なものまで、幅広く体系的にコミュニケーションの問題をとらえ、現代的課題を提示する。	
	第9回	知識	人間の存在理由と知識・教養との関連を明確にする。	
	第10回	宗教	身近で自明的になっている宗教的事象を発見し、なぜそれが宗教的事象と言えるのか、その理由を明確にする。	
	第11回	ジェンダー	ジェンダーに関する基本的理解を積み上げ、われわれの生活世界に密着した事項をリストアップし、その克服方法を展望する。	
	第12回	医療と福祉①	社会学では医療と福祉の問題をどのようにとらえることが可能なのか、その可能性を具体的に提示する。	
	第13回	医療と福祉②	第12回で得られた知見と、少子・高齢化の問題や核家族化の問題との関連性を説明できるようにする。	
	第14回	現代社会	この講義で扱ってきた諸問題を抱える現代社会の全体的輪郭を把握し、われわれがどのように働きかけ、貢献できるのか、その具体的例示ができるようにする。	
	第15回	課題の説明と作成	自分自身の頭と感覚で現代社会の諸問題を読み解くことができ、自分なりに課題を設定し、自分自身の言葉を駆使して将来展望を図り、それらへの応答・解明への手がかりを提示できるようにする。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		テキストの沿った形で進めていく。できる限りテキスト以外の事例も含めて実践的に理解できるように進めていく。		
授業外学習の指示		テキストに沿った形で進めていくので、事前に相当箇所を熟読し、疑問点や問題点を挙げておき、授業に臨むこと。復習として、事前に挙げておいた疑問点と問題点をチェックし、さらに要点をテキストによって整理しておく。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	奥井智之『社会学』東京大学出版会、2015年(税込2052円) ISBN978-4-13-052025-6
参考書	授業の内容に応じて適宜指示する。
参考URLなど	
その他	